フランス景気状況 －2026年9月－

住友商事グローバルリサーチ株式会社　経済部　2026年9月2日

Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

本資料は、住友商事グローバルリサーチ株式会社(以下、「当社」)が信頼できると判断した情報に基づいて作成しており、作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、当社及び住友商事グループは、その情報の正確性、完全性、信頼性、安全性等において、いかなる保証もいたしません。本資料は、情報提供を目的として作成されたものであり、投資その他何らかの行動を勧誘するものではありません。また、本資料は筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社及び住友商事グループの統一された見解ではありません。本資料の全部または一部を著作権法で認められる範囲を超えて無断で利用することはご遠慮ください。レポートに掲載された内容は予告なしに変更することがあります。

Contents

01 **フランス景気の総括** 02

マクロダッシュボード／重点産業モニター

02 **注目テーマ** 04

航空宇宙／防衛／エネルギー・脱炭素／ラグジュアリー／観光／農業・食品

03 **実体経済・金融動向** 11

GDP・景況感／生産・設備投資

消費・雇用／住宅／外需・財政

金利・債券市場／金融・信用環境／株式・為替市場

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

フランスマクロ経済ダッシュボード（2026年8月時点）

今月の総括

- 製造業・サービスの景況感は改善も、実体経済の回復は緩慢
- 建設・自動車・雇用は弱く、改善の広がりはなお限定的
- 内需・雇用への波及と、外部環境悪化下での回復持続性が焦点

総合判断（景気モメンタム）

緩やかに改善 ↗

景況感は改善する一方、実体経済の回復は緩慢。内需・雇用への波及は弱く、回復の広がりと持続性には不透明感

主要マクロ経済指標（景気モメンタム）

注：景気基調＝4四半期比較、足元変化＝前回値比較、足元動向＝短期トレンド比較

凡例：↑ 改善（トレンド上向き） → 横ばい ↓ 悪化（トレンド下向き）
注：矢印は各指標のモメンタム評価

GDP成長率（前年比）	製造業PMI	小売売上高（前年比）	鉱工業生産（前年比）	輸出（前年比）	CPI（前年比）	失業率	金融環境
0.5	51.1	-0.2	-0.1	6.8	2.4	8.3	4.2
2026/6	2026/8	2026/5	2026/6	2026/6	2026/8	2026/6	2026/8
景気基調 →	足元変化 ↑	足元動向 ↑	足元動向 ↑	足元動向 ↑	足元変化 ↑	景気基調 ↓	足元動向 ↓

景気ヒートマップ（分野別の景況判断）

凡例：↑ 改善 → 横ばい ↓ 悪化

消費	生産・製造	投資	建設・住宅	外需（貿易）	雇用	金融環境
↑	↑	↑	↓	↑	↓	↓
小売は持ち直すも家計需要は力強さを欠く	製造業は改善方向も業種間のばらつきが大きい	投資関連は改善方向も、財政制約が先行きの重石	低位横ばいで受注改善の実績化は途上	海外受注は改善も特定業種への偏りが残る	雇用環境は横ばい圏から弱含み	長期金利上昇が財政・投資の重石

景気先行きの注目ポイント

- 自動車販売の底打ちと消費の改善
- 受注増に裏打ちされた生産増の持続性
- 雇用の安定と家計消費への波及
- 財政・政治の不確実性
- エネルギー価格変動の経済への影響

注：矢印・色は各指標の評価基準に基づく判断
注：各指標は2026年8月時点の最新公表値を使用。公表時期により対象月は異なる

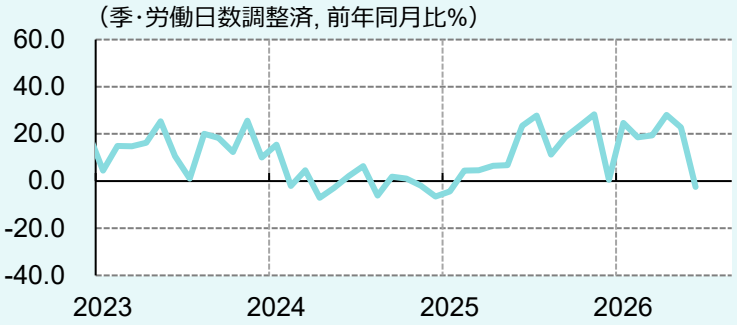
（出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、フランス経済省、フランス銀行、欧州委員会、Eurostat、Bloombergより住友商事グローバルリサーチ（SCGR）作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

重点産業モニター（2026年8月時点）

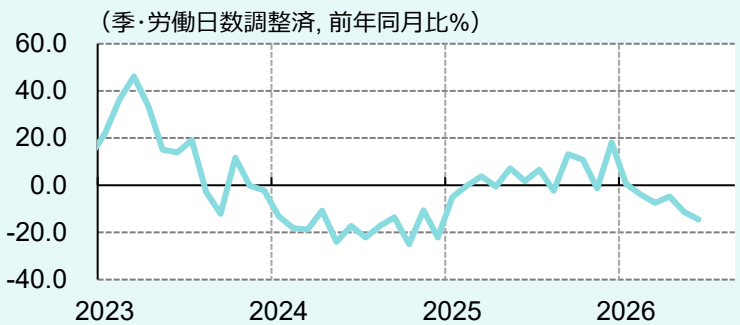
主要産業の動向

航空宇宙



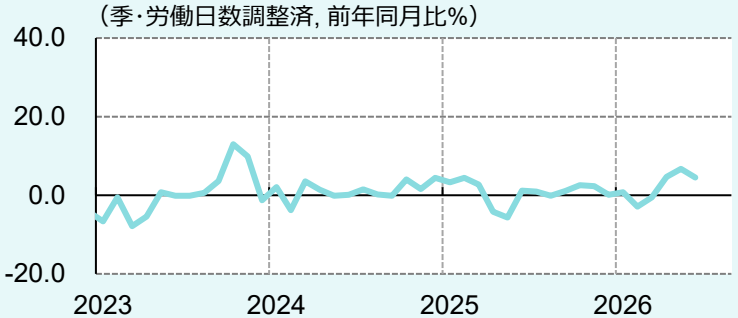
受注基盤と中期需要は堅調も、足元の生産は前年割れに低下

自動車



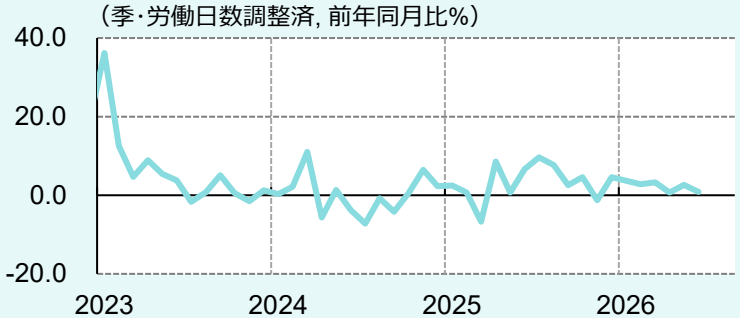
需要低迷と競争激化を背景に生産の弱さが続き、欧州市場の低迷が重石

電力・エネルギー



関連生産はプラス圏へ浮上、電化・低炭素投資が中期需要を下支え

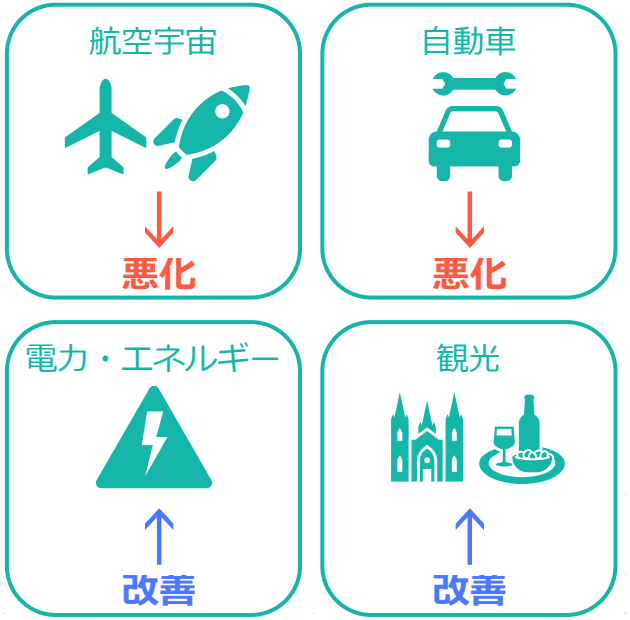
観光



宿泊需要はプラス圏を維持、高水準の訪仏需要がサービス需要を下支え

注：2026年8月時点の最新公表値を使用

産業モメンタム



今月の注目ポイント

- 産業間にばらつきはあるが、航空宇宙・観光・エネルギーには強めの追い風
- 航空宇宙は受注・需要が強く、供給制約解消と生産への波及が焦点
- 自動車の弱さに加え、財政制約・エネルギー価格が投資への重石

（出所：BloombergよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

注目テーマ

フランス経済を支える3つの顔

産業力 × エネルギー自立 × ブランドカ

— フランス経済を支える3つの構造的強み —

01

産業力

航空宇宙・防衛・自動車

戦略産業と輸出競争力
国家支援 × 欧州供給網 ×
高付加価値輸出

02

脱炭素エネルギー

原子力・再エネ・EV・水素

脱炭素とエネルギー自立
原子力 × EU脱炭素政策 ×
大型投資

03

ブランドカ

ラグジュアリー・観光・農業食品

ブランドカによる外需獲得
ラグジュアリー ×
インバウンド × 食文化

内需が弱い局面でも、戦略産業・脱炭素投資・ブランドカが景気を構造的に下支え

注：画像は生成AIにより作成したイメージ

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

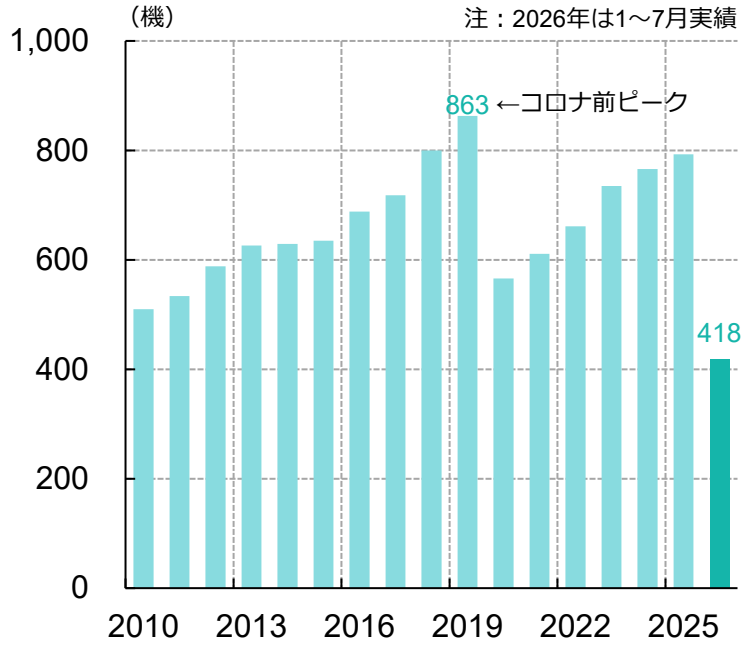
注目テーマ

航空宇宙：民間航空の回復と供給制約

- 民間航空需要の回復と高水準の受注残が、中期的な成長を下支え
- 生産は振れが大きく、旺盛な需要に反して足元では前年割れへ低下
- 供給網・人材・資金負担の解消が、増産と納入拡大の鍵

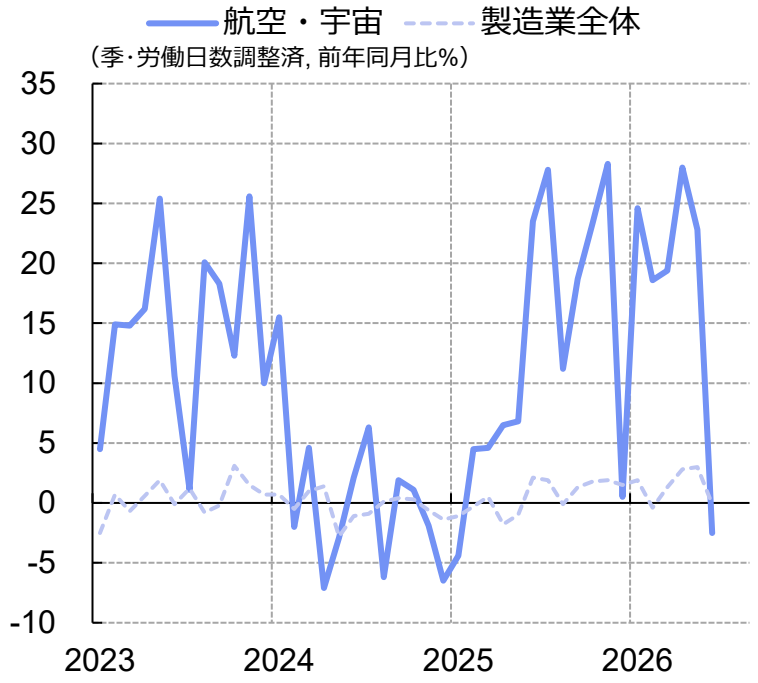
Airbus納入機数

- 1～7月の納入は418機
- 納入は回復基調を維持
- 受注残の消化には増産が鍵



フランス鉱工業生産指数（航空宇宙）

- 直近は前年割れだが一時的現象と見られている
- 製造業全体のトレンドを上回る局面も多い
- 需要の強さに対し、生産の拡大には不安も



期待と課題

8,754
Airbus受注残
（2025年末時点）

旺盛な需要を生産・納入へつなぐ
供給能力の拡大が課題

供給網
部品・機体構造等の
供給制約

人材
熟練人材・技術者の確保／
採用企業の8割が採用難

コスト・資金負担
コスト高・増産投資負担

中小サプライヤー
投資・事業承継／
経営者の44%が60歳超

「売れるか」より「造れるか」が焦点

（出所：Airbus、フランス国立統計経済研究所（INSEE）、BloombergよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

注目テーマ

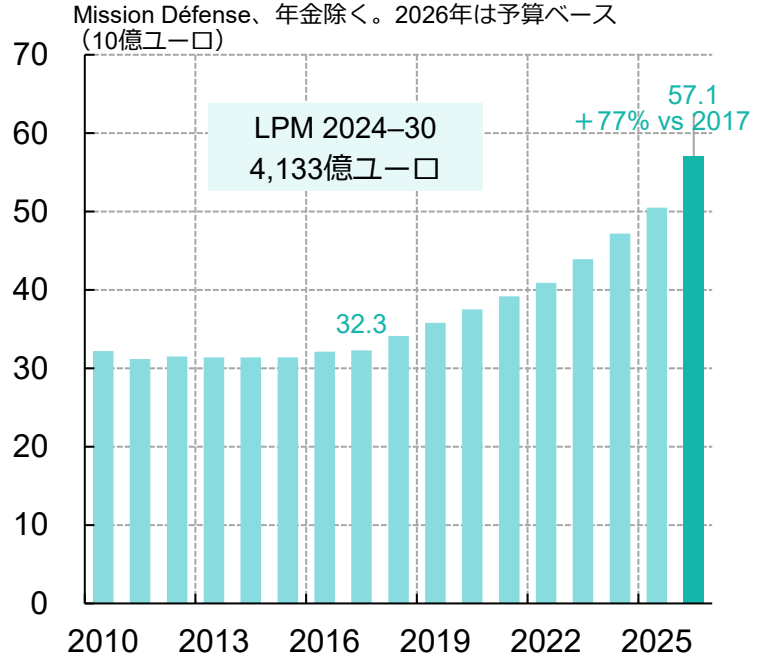
防衛：欧州再軍備と世界需要が支える戦略産業

- 欧州再軍備を背景に国防予算が拡大、「Buy European」で欧州企業への調達優先が強化
- 航空・ミサイル・電子・艦艇など幅広い防衛産業基盤を有し、輸出受注も高水準
- 予算・受注を生産につなぐ供給能力の拡大と人材・技術投資が成長の鍵

フランス国防予算

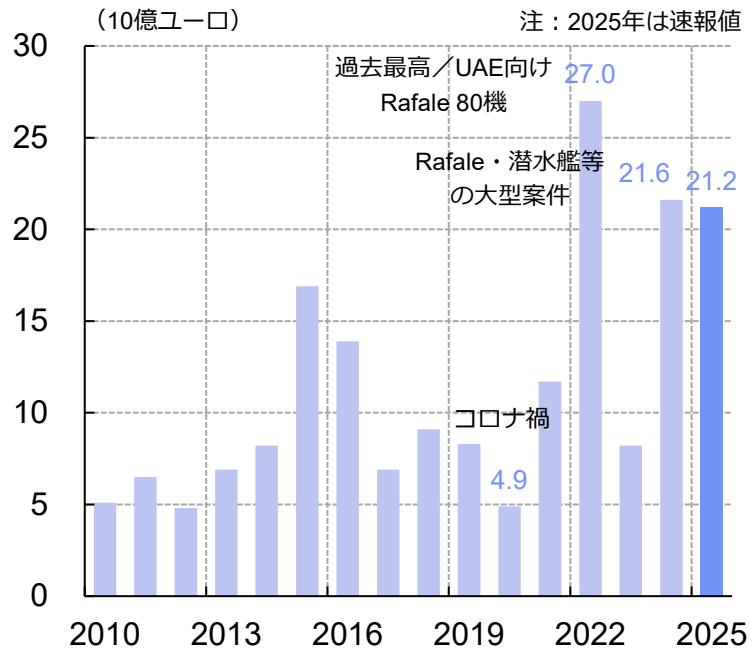
- 2026年予算は571億ユーロ、2017年比77%増
- LPM 2024～30は総額4,133億ユーロを計画
- 欧州再軍備を背景に国内需要は中期的に拡大

注：LPM＝軍事計画法（複数年の国防予算・装備投資等の枠組み）。Mission Défense、年金除く。2026年は予算ベース



フランス防衛装備輸出受注額

- 2025年受注額は速報値212億ユーロと高水準
- 大型案件により年ごとの振れは大きい
- 高水準の受注残が将来の生産を下支え



フルスペクトラムの防衛産業

国内を中核に幅広い防衛産業基盤を保有

航空
Dassault Aviation
→Rafale

ミサイル
MBDA
→Aster、SCALP等

電子・センサー
Thales
→レーダー、電子戦等

艦艇・潜水艦
Naval Group
→潜水艦、フリゲート等

エンジン・装備品
SAFRAN
→航空エンジン、航法装置等

欧州再軍備・域内調達強化・海外需要を国内産業に取り込む基盤

注：フルスペクトラム＝幅広い脅威・作戦領域に対応できる総合的な防衛能力

（出所：フランス国防省、DGAよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

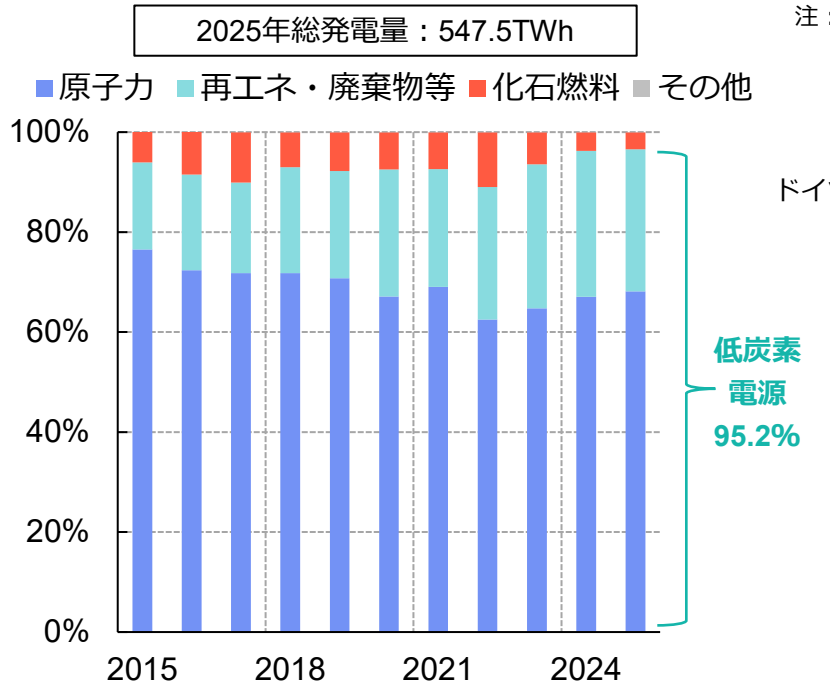
注目テーマ

エネルギー・脱炭素

- 低炭素電源比率95.2%と低い排出係数が、フランス電力の構造的優位を形成
- 原子力・再エネの供給力を、電化・水素・データセンター需要へつなぐ余地が大きい
- 計画を実投資・稼働へ移し、低炭素電力を産業競争力へ転換できるかが焦点

フランスの電源構成（発電量に占める割合、%）

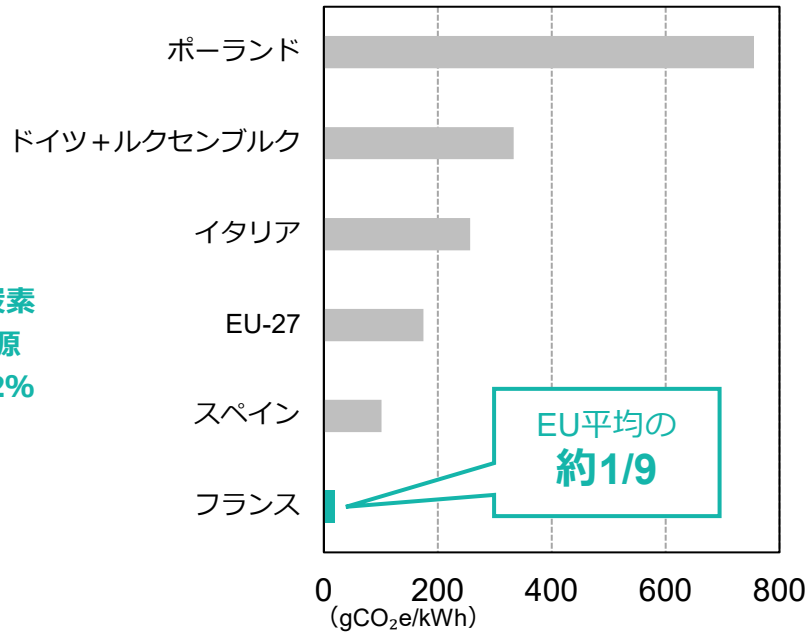
- 2025年の発電量は547.5TWh
- 原子力を軸に低炭素電源が95.2%
- 低炭素電力が産業電化・投資の基盤



電力のCO$_2$排出原単位（2025年）

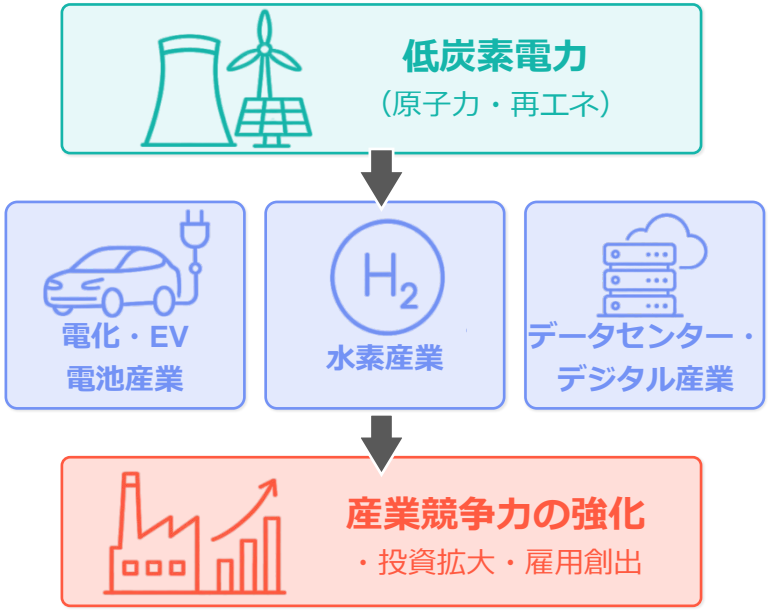
- 排出原単位はEU平均の約9分の1
- 欧州主要国を大幅に下回る低排出構造
- 低排出電力が電力多消費産業の競争力を支える

注：排出原単位＝発電電力量あたりの平均CO$_2$排出量



低炭素電力を産業競争力へ

- 低炭素電力を電化・水素・デジタルへ活用
- 新たな電力需要が投資・雇用創出につながる
- 原子力新設・電化投資の実行力が成長条件



「脱炭素」と「エネルギー自立」を同時に追求

（出所：RTEよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

注目テーマ

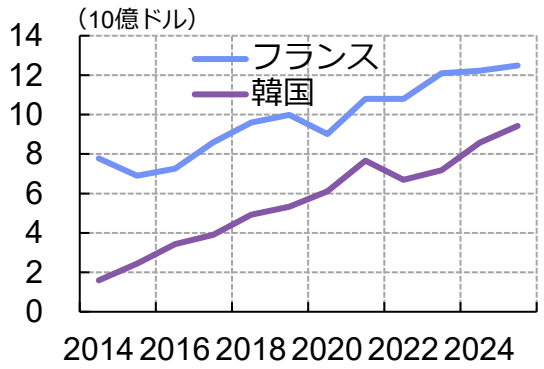
ラグジュアリー：世界市場をリードする高付加価値輸出

- 化粧品・香水・バッグで世界首位、宝飾品でも世界2位の輸出国
- 主要4品目とも長期的に輸出を拡大し、高付加価値輸出を牽引
- 一方、主要市場の需要鈍化や通商摩擦、競争激化が短期的な逆風

主要国輸出

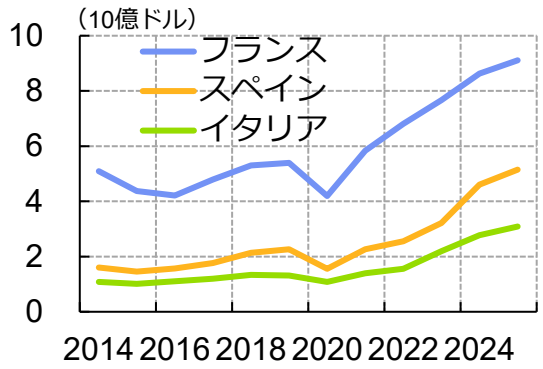
化粧品

世界首位を維持も、韓国が追い上げ



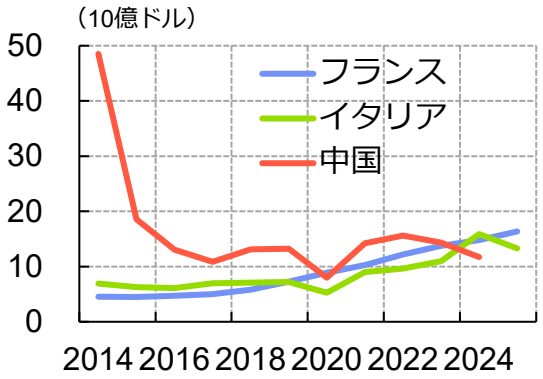
香水

輸出拡大が続き、世界首位を維持



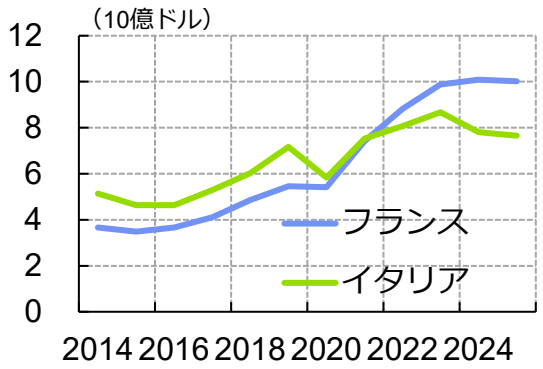
宝飾品

輸出拡大で世界2位へ浮上



バッグ

高い輸出シェアで世界首位を維持

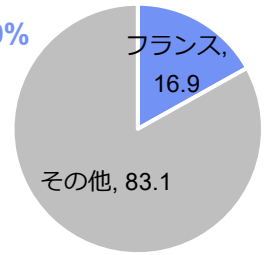


世界輸出ランキング・シェア

対象年：2024年

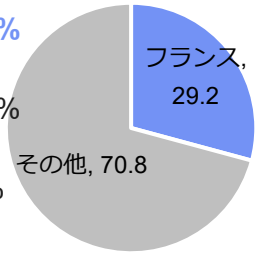
フランス：世界1位

1位 フランス 16.9%
2位 韓国 11.8%
3位 米国 8.6%



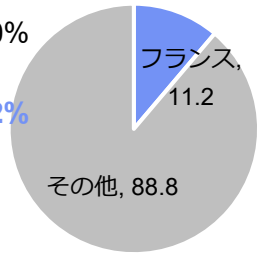
フランス：世界1位

1位 フランス 29.2%
2位 スペイン 15.6%
3位 イタリア 9.4%



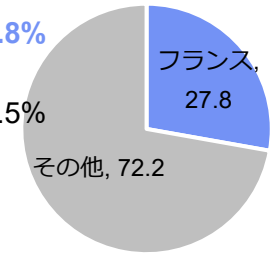
フランス：世界2位

1位 イタリア 12.0%
2位 フランス 11.2%
3位 スイス 10.1%



フランス：世界1位

1位 フランス 27.8%
2位 イタリア 21.5%
3位 中国 21.2%



注：世界順位・シェアはUN Comtradeの2024年報告国データを基に算出。2025年は未報告国があるため国際比較では使用せず。

（出所：UN ComtradeよりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

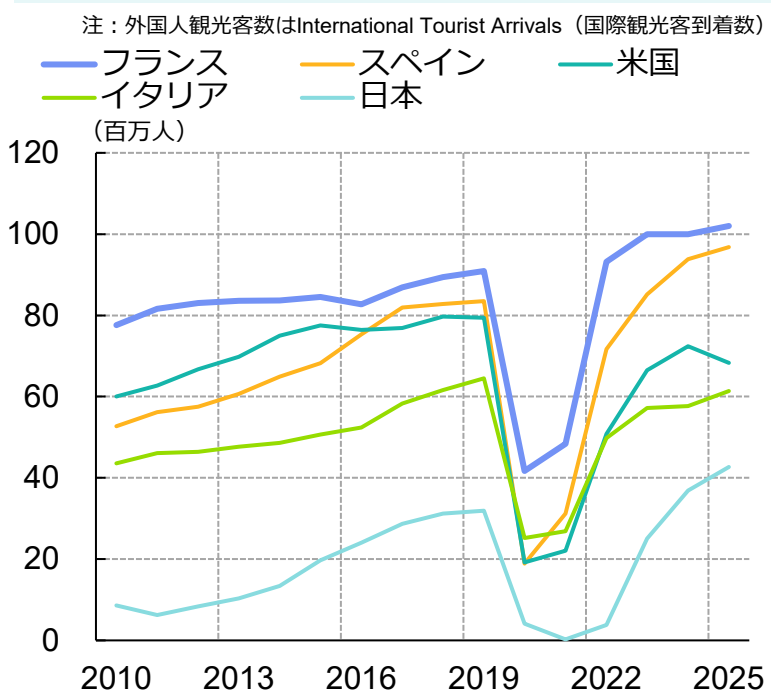
注目テーマ

観光：世界最大級の集客力を持つ「国そのものがブランド」の産業

- 外国人観光客数はコロナ禍前を上回り、集客力は高水準を維持
- 文化・歴史から食、自然まで、地域に広がる観光資産が国際需要を支える
- 集客力を観光収入へ転換し、1人当たり観光収入を高めることが収益拡大の鍵

外国人観光客数の推移

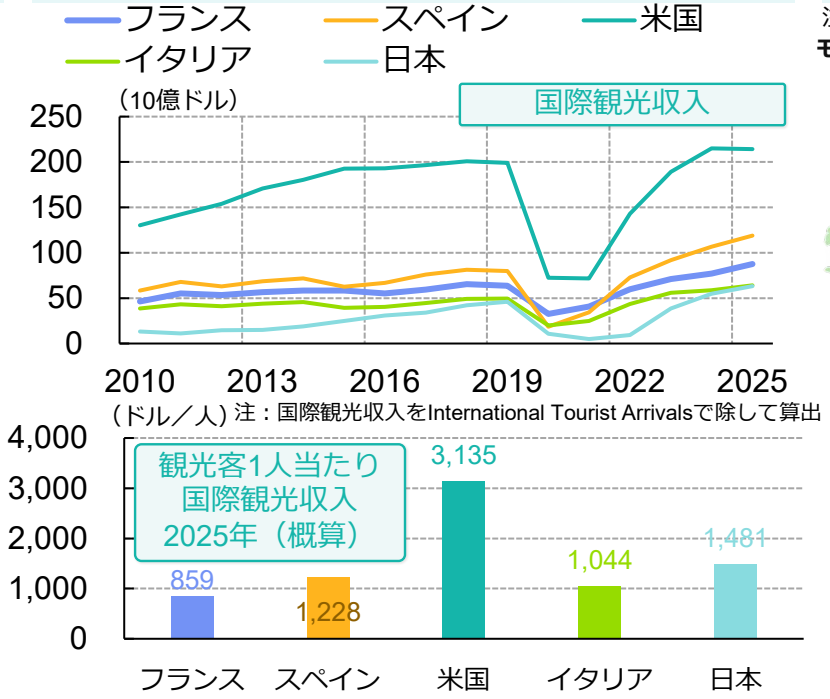
- 外国人客数は2025年に約1億人
- コロナ前を上回り、高水準の集客を維持
- 旺盛な訪仏需要がサービス需要を下支え



（出所：UN Tourism、各国政府・統計機関よりSCGR作成）

国際観光収入と観光客1人当たり収入

- 観光収入は回復基調
- 1人当たり収入は859ドル
- 集客力に比べ、1人当たり収入には拡大余地



（出所：UN Tourism、各国政府・中央銀行・観光当局、ECBよりSCGR作成）

フランスならではの観光資産

- 観光資産が全国各地に広く分布
- 文化・食・自然の多様性が強み
- 地域への広がりが観光基盤を厚くする

（出所：UN Tourism、観光当局よりSCGR作成。
地図・画像は生成AIにより作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

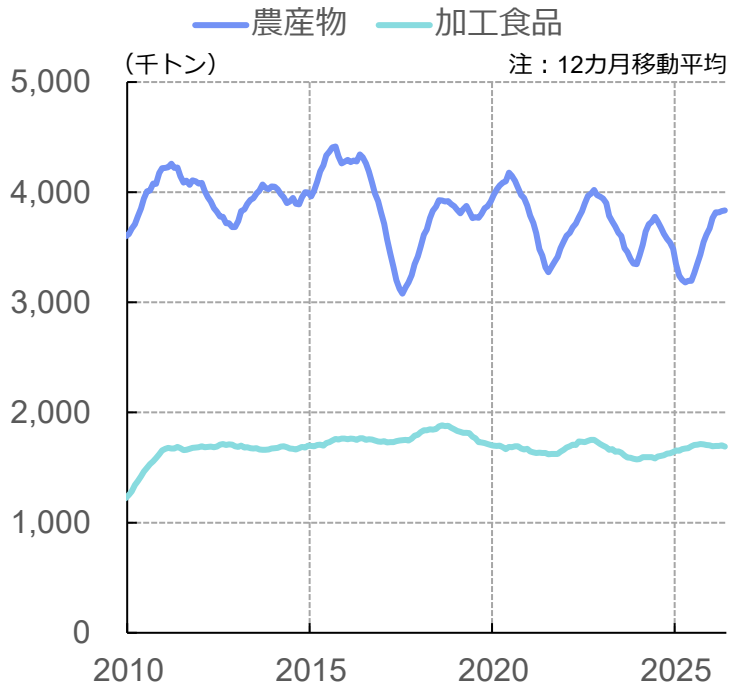
注目テーマ

農業・食品：欧州有数の農業国・高品質食品輸出

- 農産物・加工食品の幅広い輸出基盤を持つ一方、ワイン輸出は減速
- 農業生産額は2024年の低下後に回復するも、天候による作物別のばらつきが大きい
- 気候変動と通商環境の変化への対応が、生産安定と高付加価値輸出の持続性を左右

農産物・加工食品の輸出量推移

- 農産物の輸出量は変動が大きい
- 加工食品は比較的安定して推移
- 加工食品の安定が輸出基盤を下支え

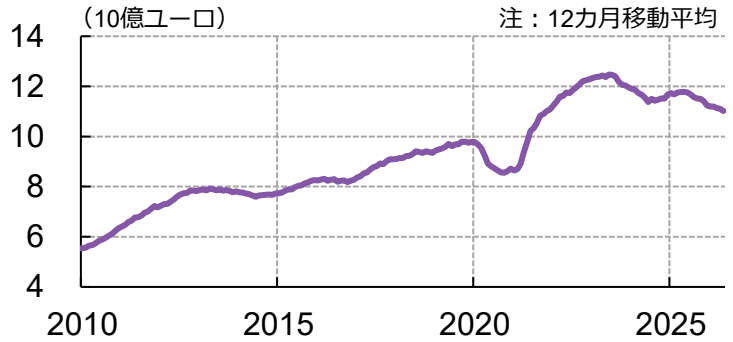


（出所：EurostatよりSCGR作成）

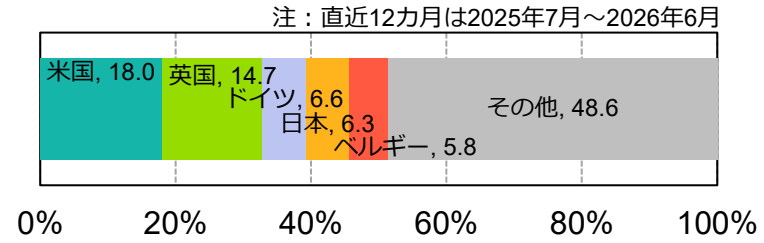
ワイン輸出：主要市場に支えられるも減速

- ワイン輸出額はピーク後に減速
- 米英など主要市場が需要を下支え
- 外需鈍化・通商摩擦が高付加価値輸出のリスク

輸出額長期推移



主要輸出先別 ワイン輸出額シェア

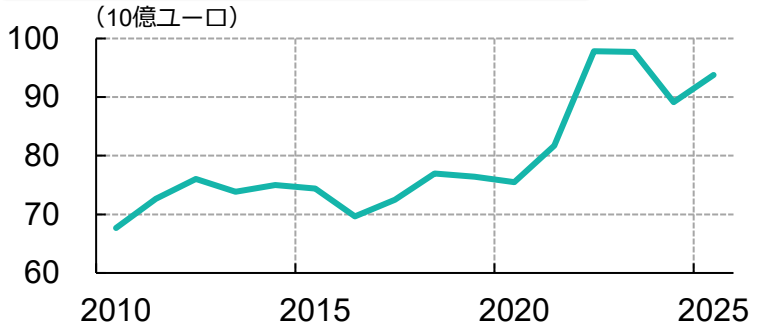


（出所：EurostatよりSCGR作成）

農業生産は回復も、気候リスクが重石

- 農業生産額は2024年低下した後、回復基調へ
- 天候不順が作物別の収量を下押し
- 気候変動が安定的な生産回復を制約

2010～2025年の農業生産額（補助金除く）



気候変動が生産量に与える影響

2024年：多雨

降水量は平年比 +15%、
土壌も長期間湿潤
→ **小麦など冬作物の収量悪化**

2026年：猛暑・干ばつ（見込み）

春は平年比 +1.7℃、
降水量 ▲30%
→ **トウモロコシ生産 前年比▲35%、9.0百万トン見込み**

（出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、各種公表資料よりSCGR作成）

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

実体経済・金融動向

GDP・景況感／生産・設備投資／企業収益

消費・雇用／住宅／外需／財政

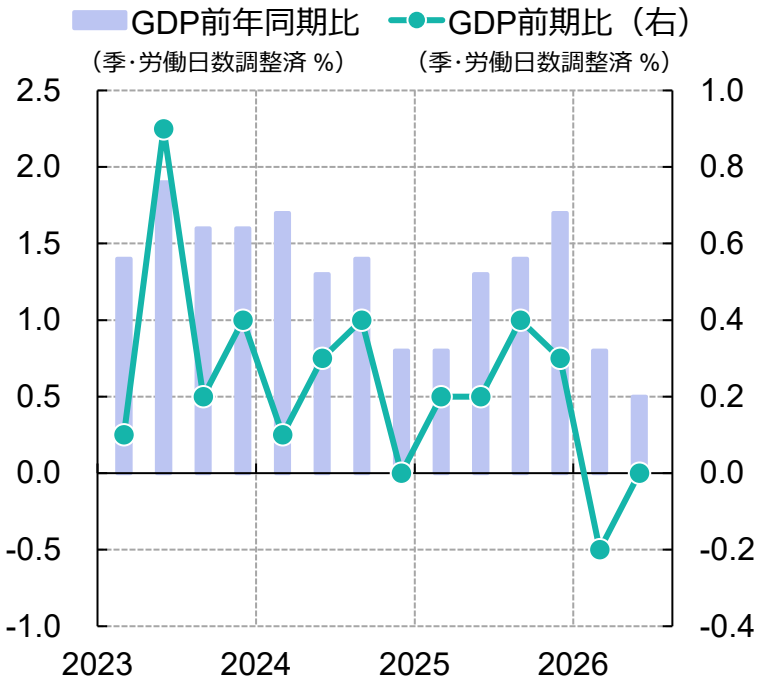
金利・債券市場／金融・信用環境／株式・為替市場

GDP・需要構造

- 実質GDPは低成長が続き、足もとでは伸びが一段と鈍化
- 家計消費や設備投資の寄与が限られるなか、在庫や純輸出の変動が成長を左右
- 内需の力強さを欠き、政治・財政不確実性も年後半の成長を抑制

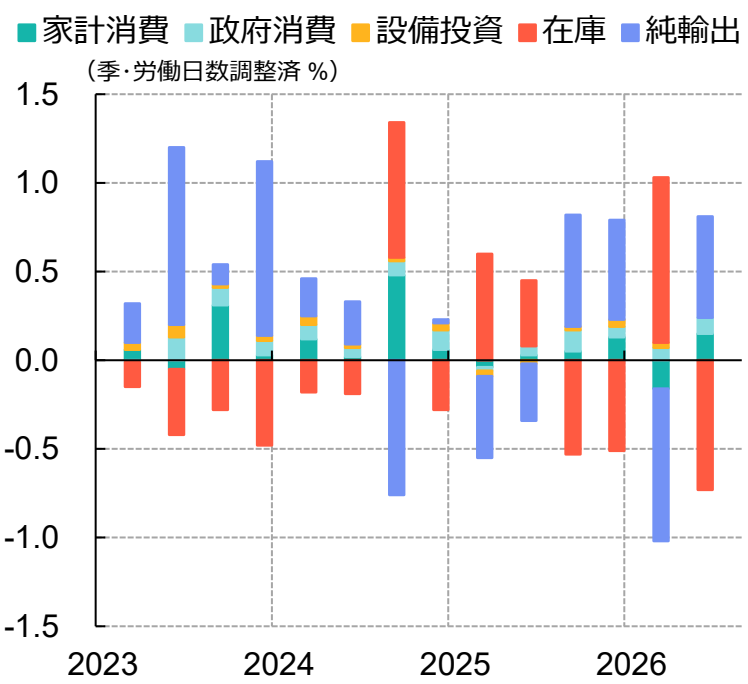
実質GDP成長率

- 前期比成長率は低位で推移
- 一時持ち直したものの、足もとでは再び弱含み
- 持続的な成長には内需の持ち直しが必要



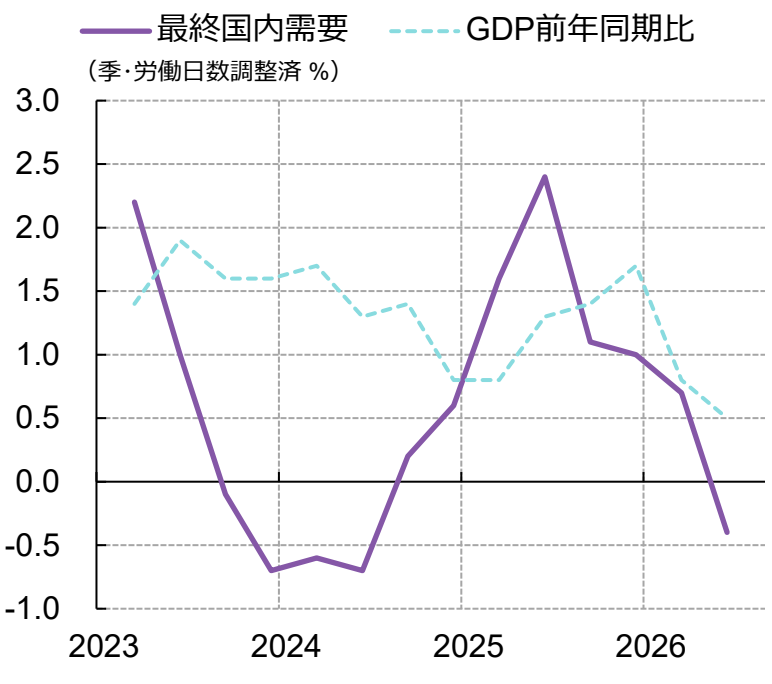
需要項目別のGDP寄与度

- 需要項目の寄与は期ごとに振幅
- 家計消費と設備投資の支えは弱い
- 在庫・純輸出に左右され、成長の自律性は弱い



最終国内需要

- 最終国内需要は直近でマイナス
- 消費・投資の弱さが内需を抑制
- 自律的な需要回復には遅れが見られる



（出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、BloombergよりSCGR作成）

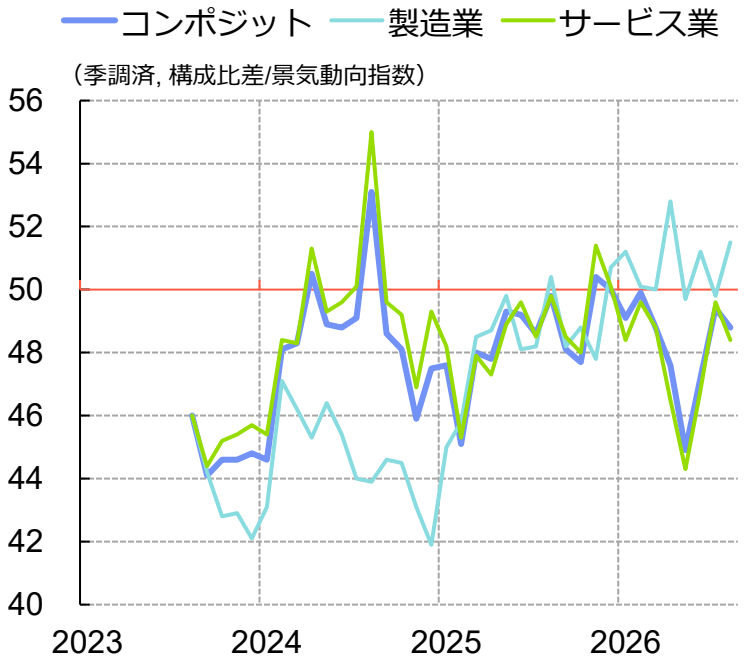
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

企業・消費者マインド

- 企業景況感には持ち直しの動きがみられる
- 製造業の改善に対し、サービス業PMIや建設業の景況感は力強さを欠くなどバラツキも見られる
- 消費者信頼感は低水準にとどまり、企業部門の改善が家計需要へ波及するには時間を要する

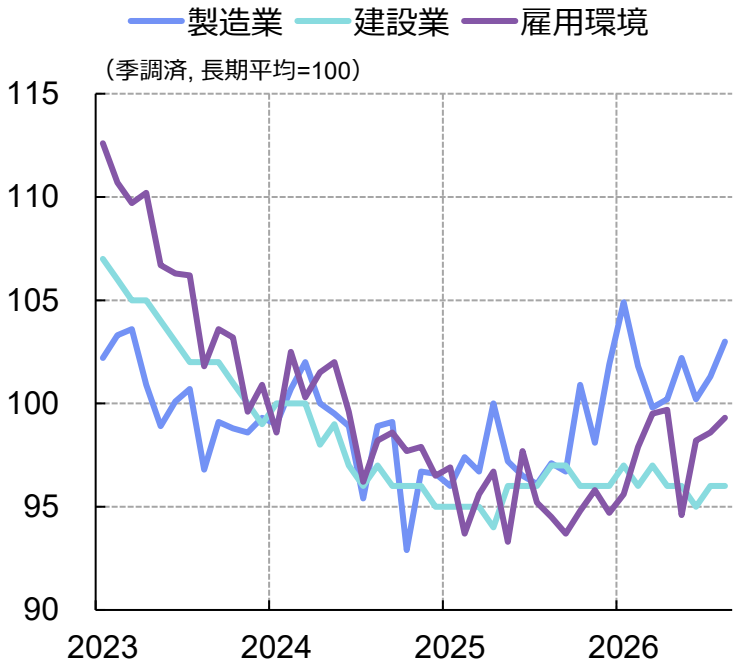
PMI

- PMIは50近辺で方向感を欠く
- 製造業に対しサービス業は弱含み
- 民間活動の持続的拡大には至らず



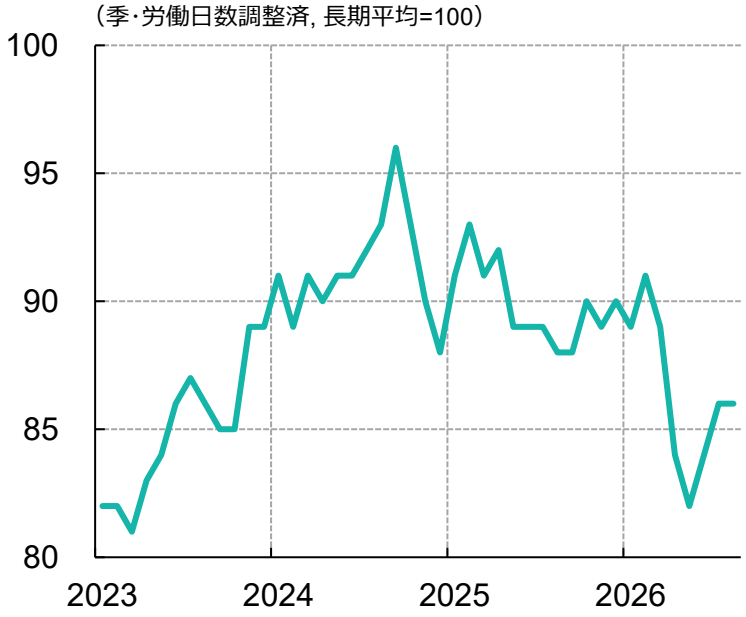
INSEE企業景況感

- 製造業景況感は持ち直し
- 建設業は長期平均を下回る
- 企業部門の回復には業種差が残る



INSEE消費者信頼感

- 消費者信頼感は低水準で推移
- 直近の反発も長期平均には届かず
- 家計需要の回復力はなお限定的



（出所：S&Pグローバル、フランス国立統計経済研究所（INSEE）、BloombergよりSCGR作成）

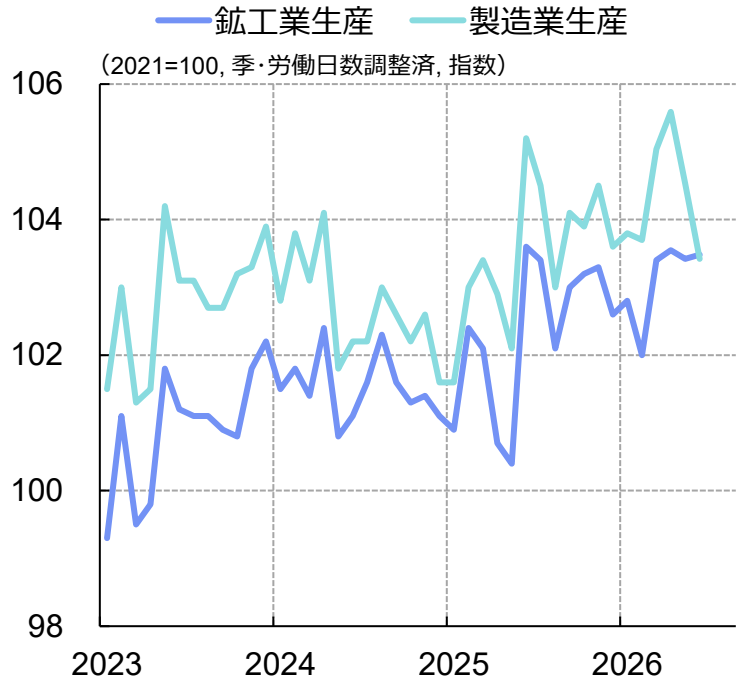
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

生産・設備投資

- 鉱工業・製造業生産は緩やかな上向きを維持するが、足元の増勢は限定的
- 設備稼働率は回復したものの、資本財生産は直近で前年比マイナスへ転じた
- 生産の持ち直しが設備投資へ波及するか、受注と稼働率の持続性が今後の焦点

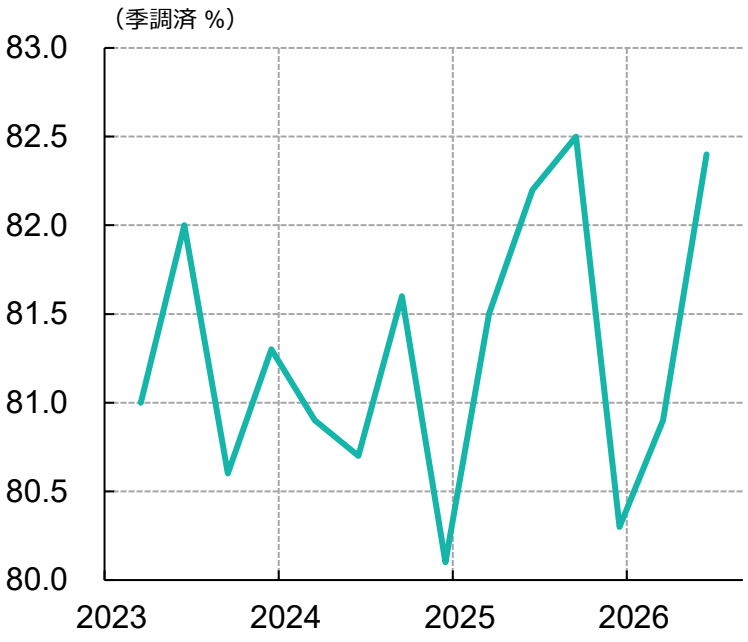
鉱工業生産・製造業生産

- 生産指数は緩やかに上昇
- 製造業が鉱工業全体を上回る
- 持続的な回復には業種の広がりが必要



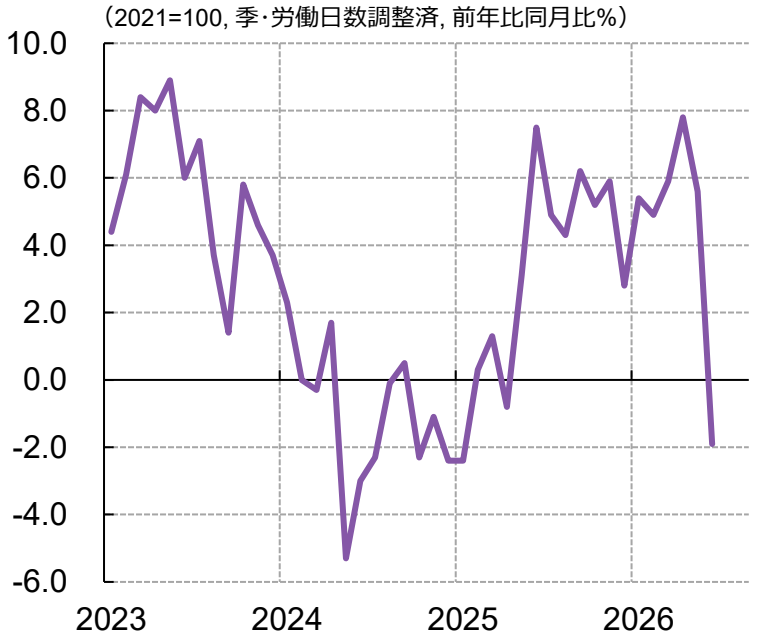
設備稼働率

- 設備稼働率は直近で反発
- なお過去の高水準には届かず
- 投資回復には稼働上昇の定着が焦点



資本財生産

- 資本財生産は前年比マイナスへ
- それまでの高い伸びから大幅に鈍化
- 設備投資の回復はなお確認を要する



(出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、 Eurostat、BloombergよりSCGR作成)

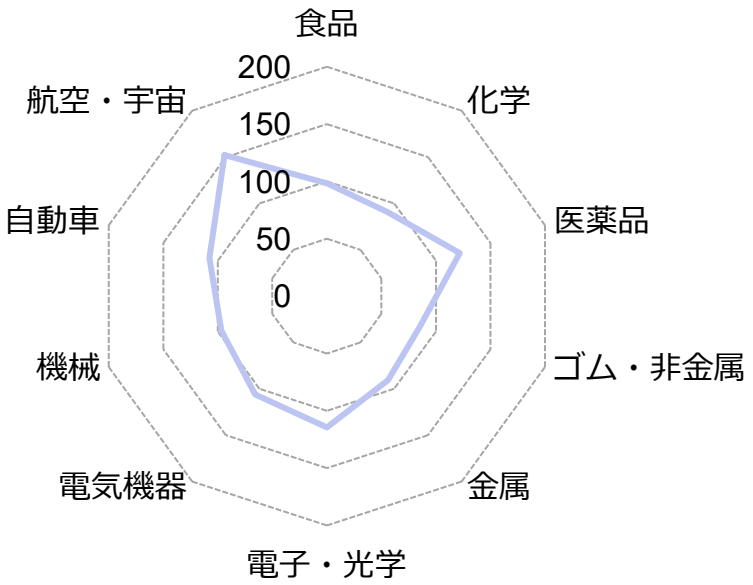
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

鉱工業生産の業種別動向

- 鉱工業生産は前年水準を上回るものの、業種間の強弱は鮮明
- 非鉄金属・電子関連が支える一方、食品・化学・自動車など幅広い業種が弱含む
- 改善は一部業種に偏り、製造業全体への波及はなお限定的

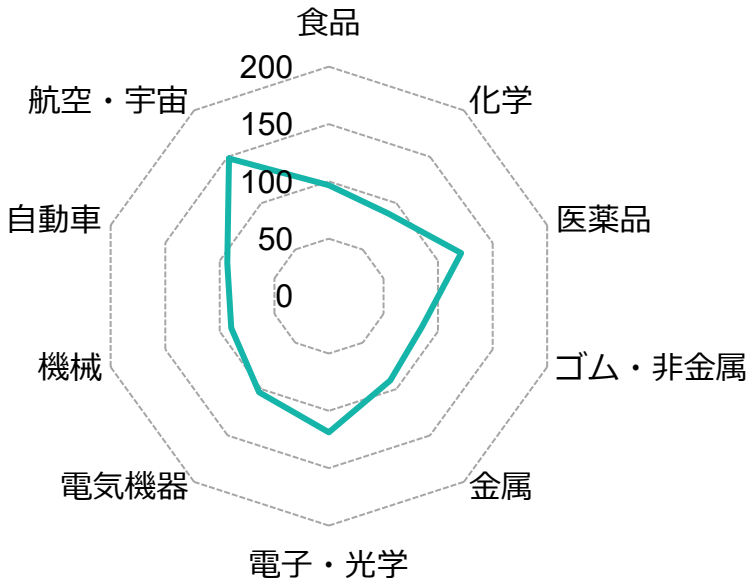
前年同月（2025年6月）

- 生産水準は業種ごとの差が大きい
- 航空宇宙と医薬品の生産水準が相対的に高い
- 高水準業種でも足元の増勢は一様でない



最新月（2026年6月）

- 最新月も鉱工業生産は底堅い
- 金属・電子関連が全体を下支え
- 改善の業種的な広がりは限定的



主要業種の前年比モメンタム

注：2026年6月の前年同月比

主要業種	前年同月比
食品･飲料･たばこ製造	↓ 悪化
化学品･化学製品製造	↓ 悪化
医薬品･製剤製造	↓ 悪化
ｺﾞﾑ･ﾌﾟﾗｽﾁｯｸ製品･その他非金属鉱物製品製造	↑ 改善
非鉄金属･加工金属製品製造(除機械･機器)	↑ 改善
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ･電子･光学製品製造	↑ 改善
電気機器製造	↓ 悪化
機械･機器製造(他に分類不能)	↓ 悪化
自動車･ﾄﾚｰﾗｰ･ｾﾐﾄﾚｰﾗｰ製造	↓ 悪化
航空機･宇宙船･関連機械製造	↓ 悪化

（出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、BloombergよりSCGR作成）

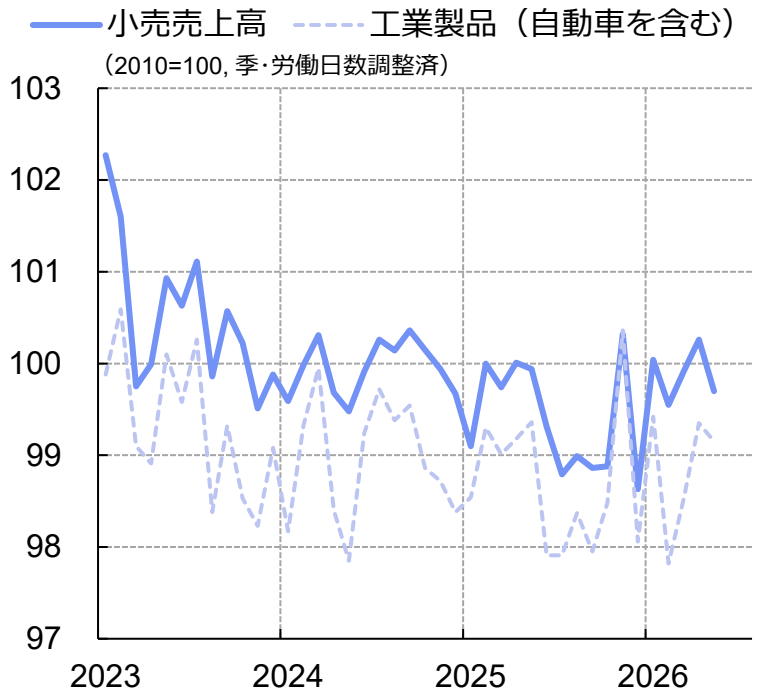
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

消費・所得

- 小売売上高は振れを伴いながら横ばい圏にとどまり、家計消費の回復力はなお弱い
- 可処分所得は増加基調を維持する一方、貯蓄率は高水準で所得の消費への波及は限定的
- 雇用・購買力への慎重姿勢が残るなか、所得増が実際の消費拡大につながるかが焦点

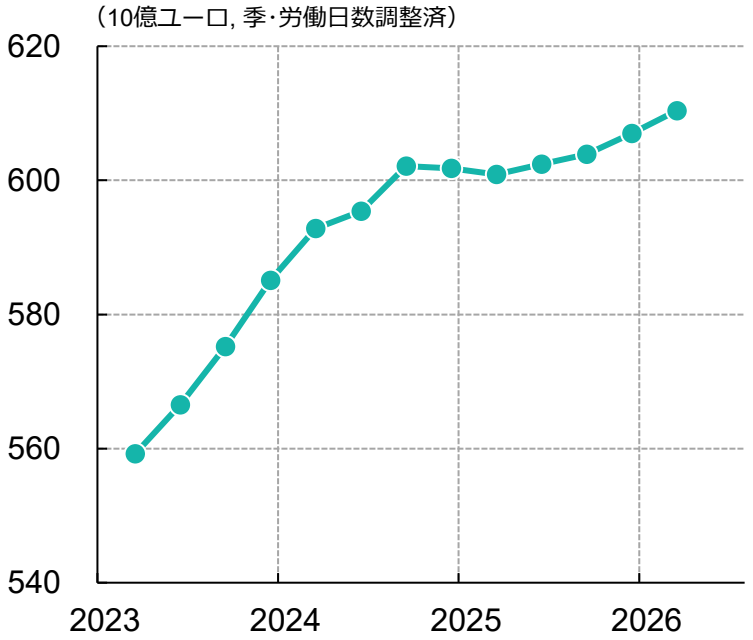
小売売上高

- 小売売上高は横ばい圏で推移
- 工業製品は相対的に弱い
- 消費回復の勢いは弱い



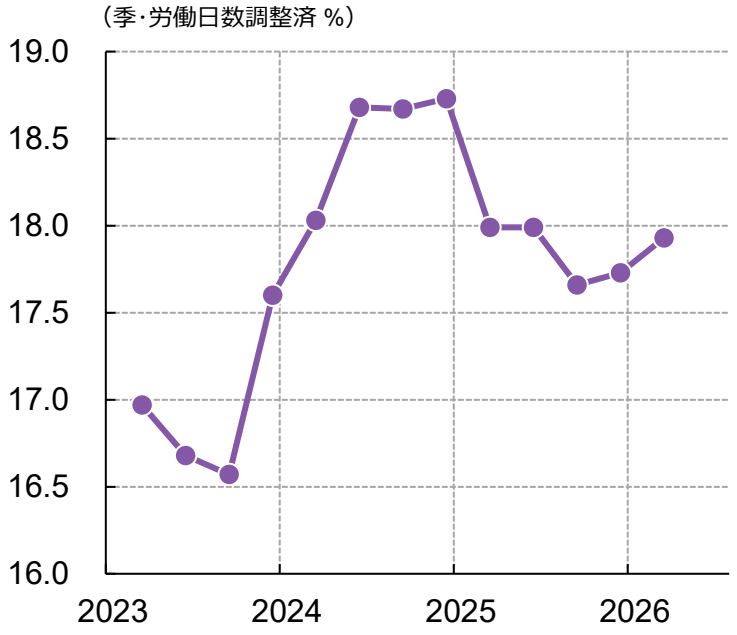
家計可処分所得（名目）

- 名目可処分所得は増加基調
- 足元でも緩やかな伸びが継続
- 実質購買力の改善につながるかが焦点



家計貯蓄率

- 貯蓄率は高水準を維持
- 2025年の低下後は再び上昇
- 高い貯蓄率が所得から消費への波及を抑制



（出所：フランス銀行、フランス国立統計経済研究所（INSEE）、BloombergよりSCGR作成）

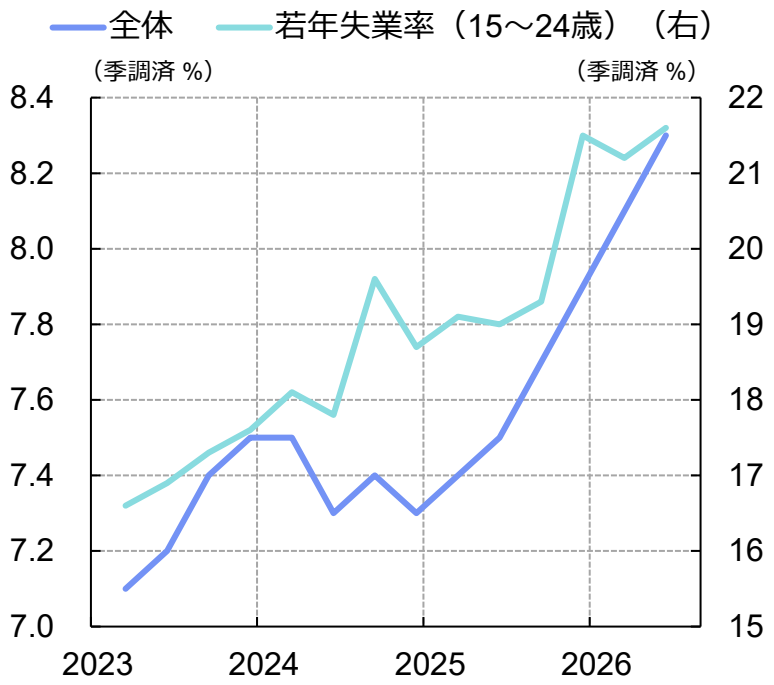
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

雇用・賃金

- 失業率は上昇し、若年失業率も高水準にあるなど、労働市場は弱含んでいる
- 雇用者数はサービス業を中心に伸びが鈍化し、産業部門では前年割れが続く
- 賃金は上昇基調を保つが、雇用環境の弱さが家計消費の回復を抑制

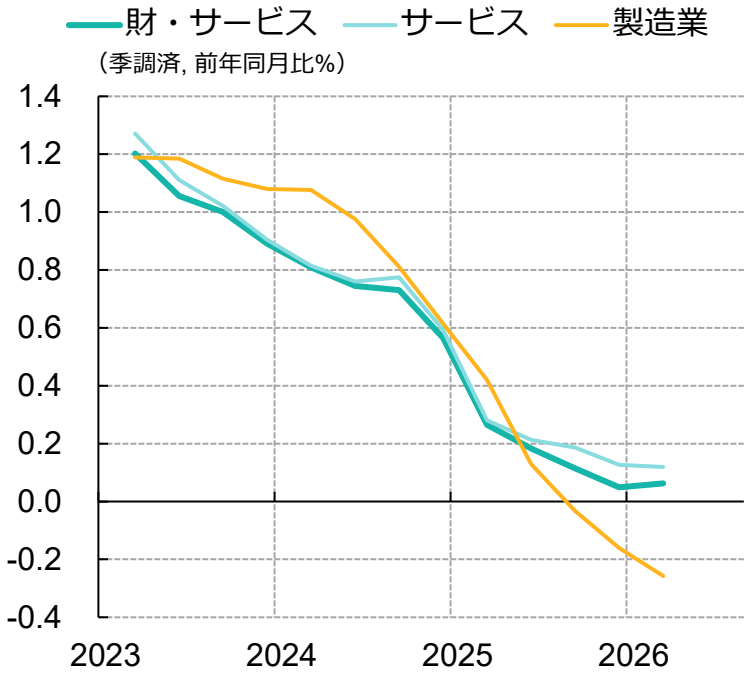
失業率

- 失業率は8%台へ上昇
- 若年失業率は21%台の高水準
- 家計の慎重姿勢を強める要因



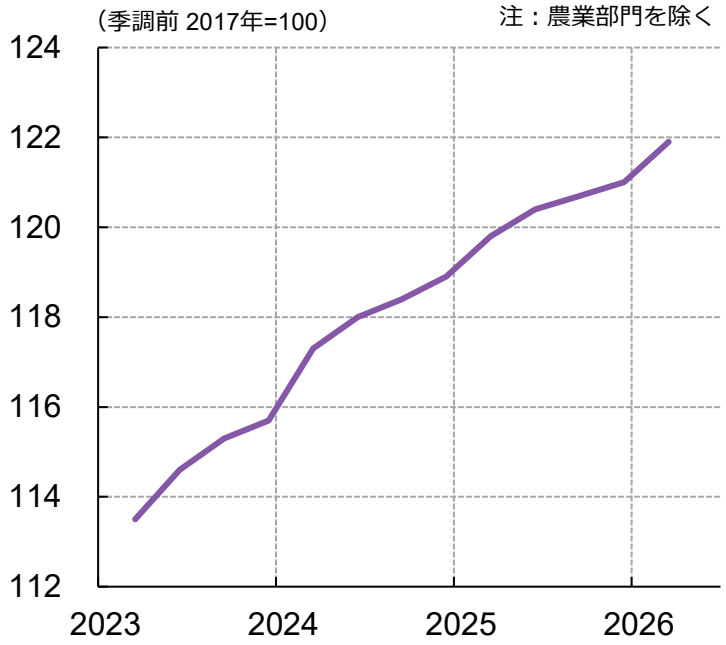
雇用者数

- 雇用の伸びは大きく鈍化
- サービスも小幅増にとどまる
- 産業部門は前年割れが継続



賃金（月給）

- 賃金は緩やかな上昇基調
- 足元でも名目賃金は上昇を維持
- 雇用の弱さが家計への波及を抑制



（出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、フランス労働局、BloombergよりSCGR作成）

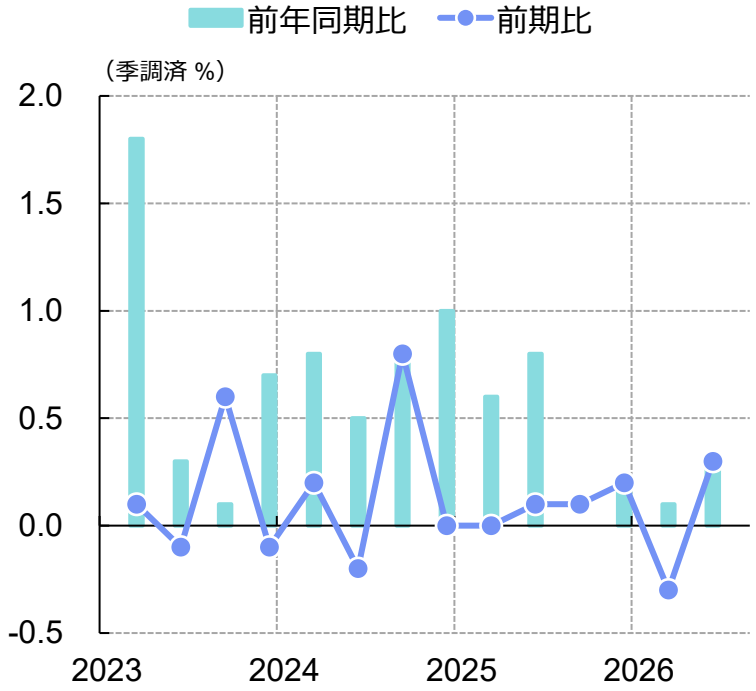
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

個人消費・物価

- 実質個人消費は前年比プラスを維持するが、足元の伸びは小幅にとどまる
- 財別消費はばらつきが大きく、工業製品は改善も需要の広がりはなお限定的
- インフレ率は再び上昇し、エネルギー価格の反発が家計購買力の重石に

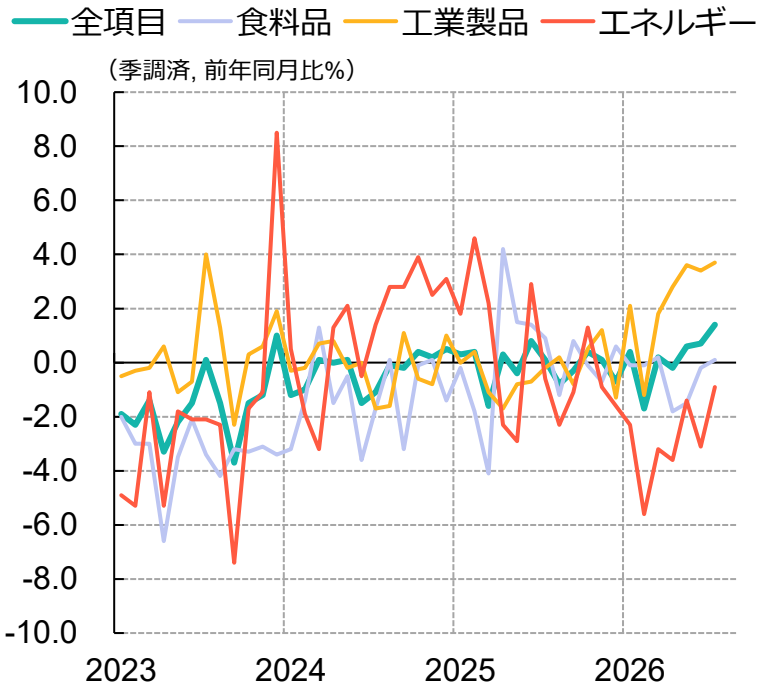
実質個人消費

- 前年比では小幅なプラス
- 前期比は増減を繰り返す
- 消費回復の基調はなお弱い



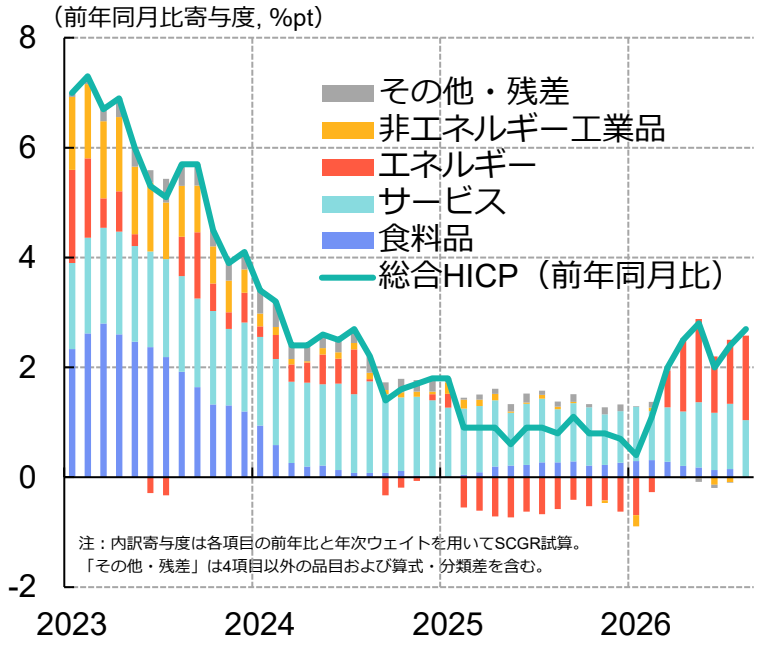
実質家計財消費の内訳

- 財消費は全体として持ち直し
- エネルギー消費の減少が重石
- 工業製品は持ち直すも、広がりは限定的



インフレ内訳

- 総合インフレ率は再び上昇
- エネルギーの寄与が拡大
- 家計購買力への下押し圧力が再燃



（出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、 Eurostat、BloombergよりSCGR作成）

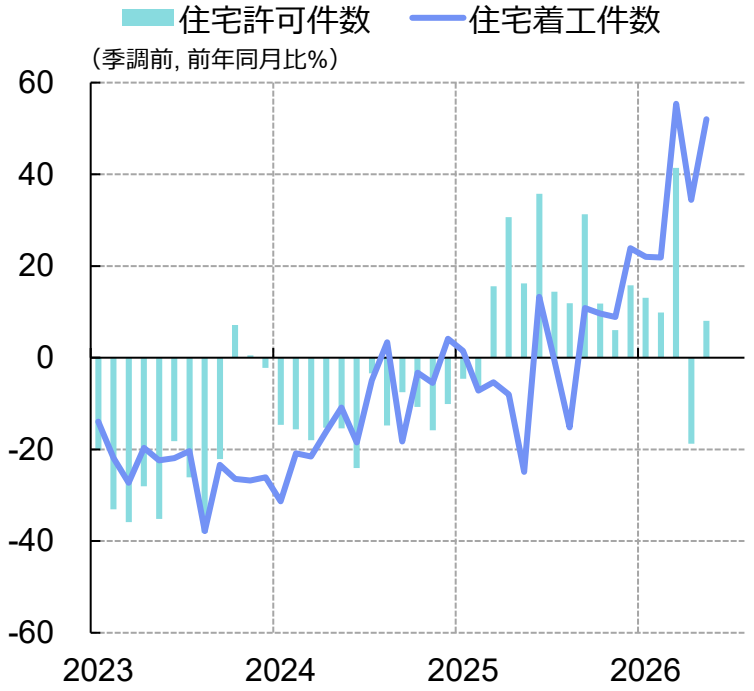
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

住宅・不動産

- 住宅許可・着工は低水準から持ち直し、中古住宅取引も2024年の底から回復が続く
- 住宅価格はプラス圏へ戻った後、戸建てとアパートで足元の方向に差がみられる
- 先行指標は改善するも、実際の建設活動への波及と住宅市場回復の持続性はなお不透明

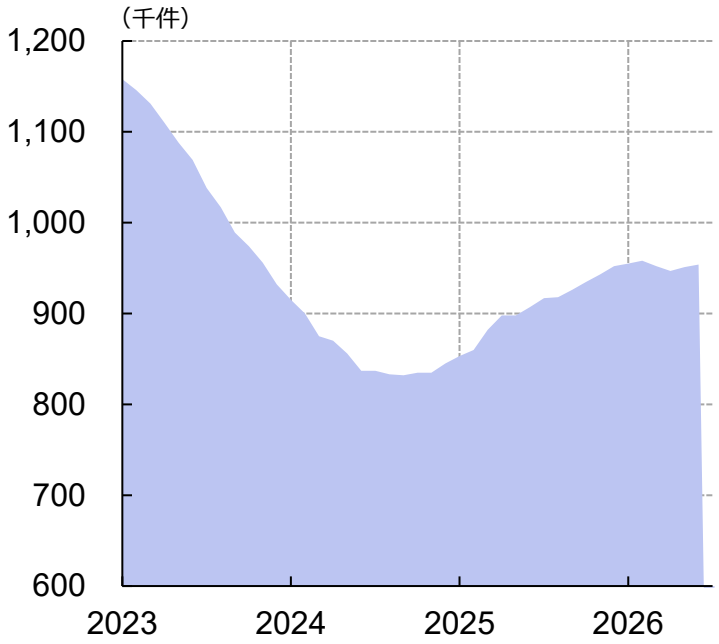
住宅着工・許可件数

- 許可・着工は前年比プラス基調
- 月ごとの振れはなお大きい
- 実際の建設増への波及はこれから



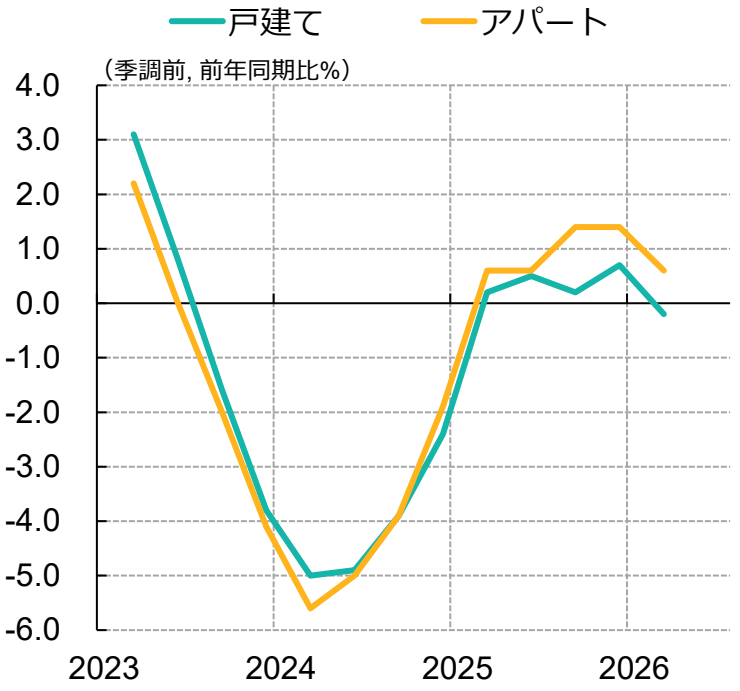
中古住宅取引件数

- 取引件数は約95万件へ回復
- 2024年を底に持ち直しが継続
- 金融環境の改善下でも回復の勢いは緩やか



住宅価格

- 価格は下落局面から回復
- アパートの上昇率が戸建てを上回る
- 住宅タイプ別に方向感の差が残る



（出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、フランス・エコロジー省、BloombergよりSCGR作成）

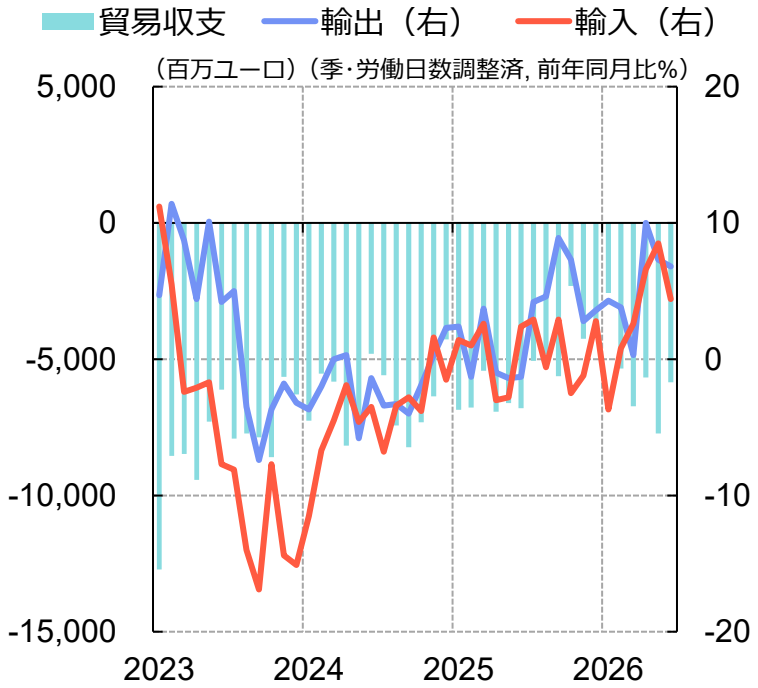
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

貿易・外需

- 貿易収支は赤字が継続し、直近は輸出入ともに伸びが鈍化している
- 輸出は輸送用機器や医薬品が支える一方、化学品・農産食品は前年割れとなった
- 輸送用機器が下支えするも、品目・地域の偏りや通商環境が外需回復の重石

輸出入・貿易収支

- 貿易赤字は解消に至らず
- 直近は輸出入とも伸びが鈍化
- 外需の広がりはなお限定的



主要品目別輸出

- 輸送用機器は前年比9.6%増
- 医薬品・電子関連も二桁増
- 化学品・農産食品は前年割れ

注：直近12カ月＝2025年7月～2026年6月

主要輸出品目	直近12カ月累計（10億ユーロ）	前年同期比
輸送用機器（航空機、自動車等）	127.1	9.6%
化学品・香水・化粧品	73.4	-2.7%
農産食品	64.6	-1.6%
産業・農業機械	48.0	3.6%
医薬品	42.2	14.7%
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ電子部品･光学装置	3.5	11.3%

主要相手国・地域

- 対中赤字は506億ユーロ
- 英国向けは142億ユーロの黒字
- 対中赤字が突出し、対米赤字も拡大傾向

注：直近12カ月＝2025年7月～2026年6月

主要相手国	前年同期比		貿易収支（10億ユーロ）
	輸出	輸入	
ドイツ	7.8%	4.7%	-6.0
イタリア	5.0%	6.6%	-4.2
スペイン	5.7%	-2.8%	1.7
ベルギー	-0.3%	-7.0%	0.7
英国	5.3%	-0.8%	14.2
米国	-4.0%	2.9%	-9.7
中国	2.1%	4.1%	-50.6
日本	-1.9%	-3.7%	-0.6
ASEAN	8.2%	3.2%	-6.9

（出所：フランス経済省、フランス国立統計経済研究所（INSEE）、BloombergよりSCGR作成）

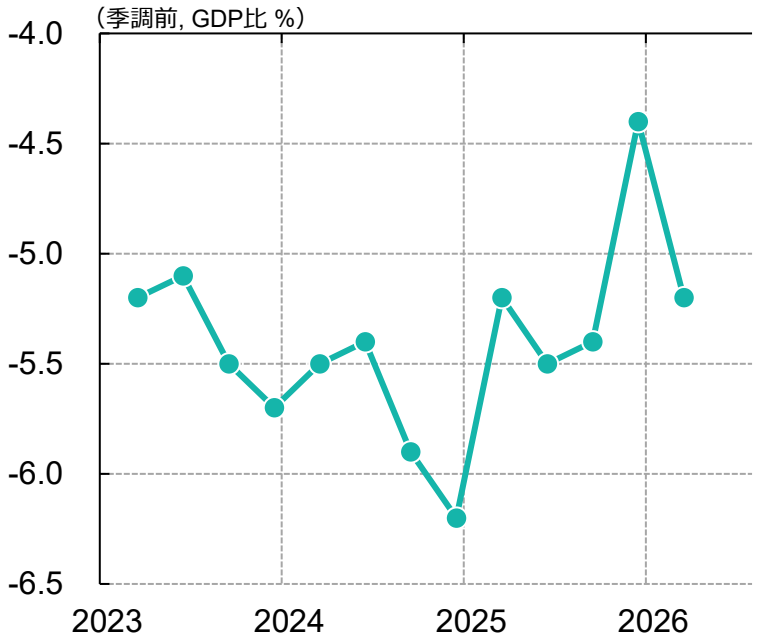
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

財政

- 財政赤字は一時縮小したものの、直近はGDP比5%台へ再び拡大している
- 政府債務はGDP比117%台まで上昇し、利払い費も高水準で推移する
- 財政健全化の必要性が増すなか、歳出抑制が景気回復の中期的な制約となり得る

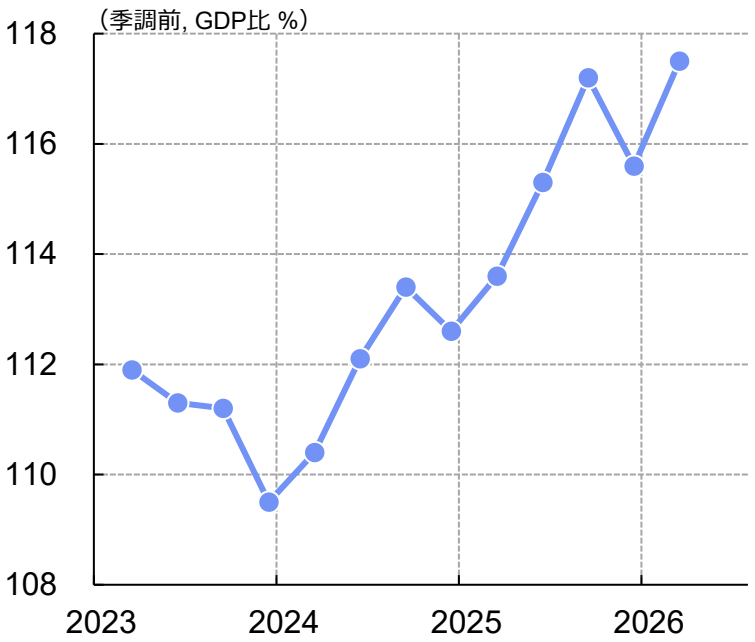
一般政府財政収支（対GDP比）

- 赤字は直近GDP比5.2%
- 前期の4.4%から再拡大
- 財政赤字の縮小基調は定着せず



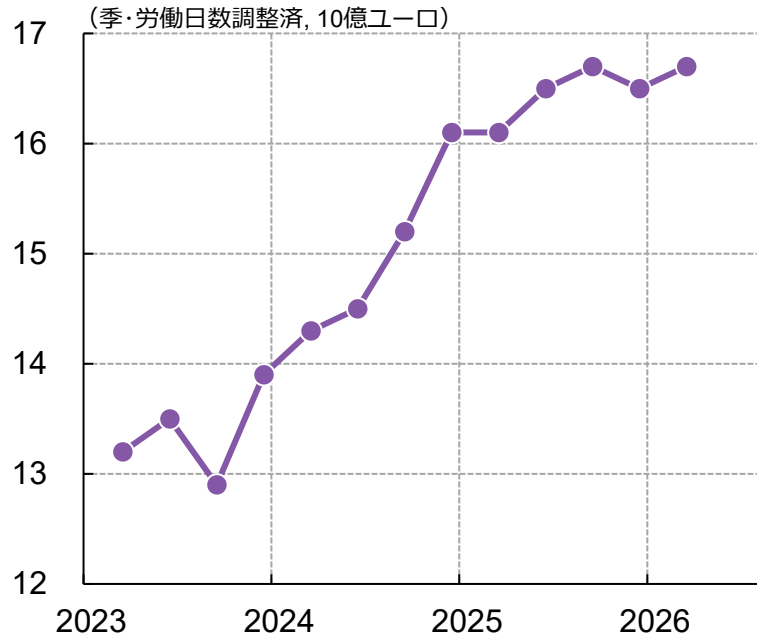
一般政府債務（対GDP比）

- 債務比率は117%台へ上昇
- 近年の上昇基調が続く
- 財政政策の余地を狭める要因



政府利払い費

- 利払い費は約167億ユーロ
- 2023年以降の増加が鮮明
- 金利負担が財政余力を圧迫



（出所：フランス国立統計経済研究所（INSEE）、BloombergよりSCGR作成）

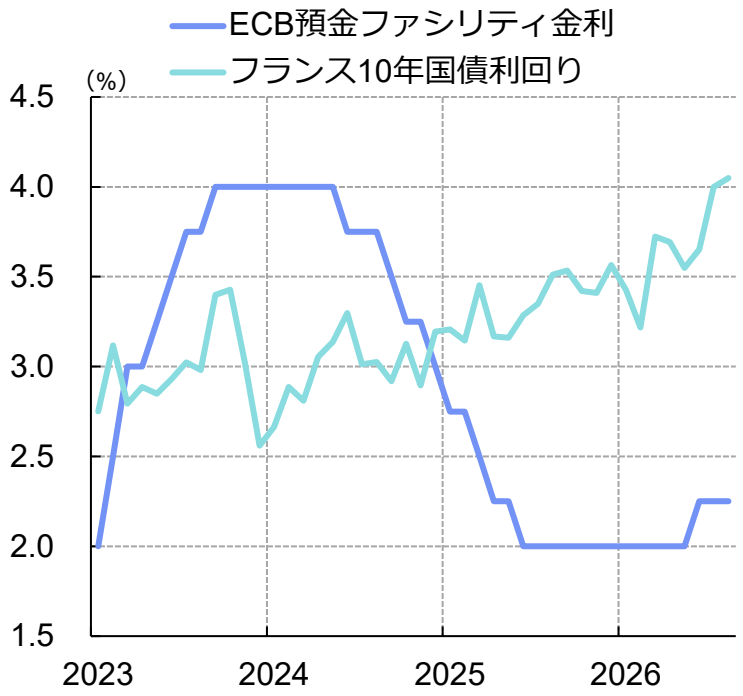
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

金利・債券市場

- ECBの政策金利が引き下げられる一方、フランス10年国債利回りは4%近傍へ上昇
- 仏独金利差は80bp台へ拡大し、財政運営に対する市場の警戒が強まる
- 金融緩和が進んでも長期金利は高止まりし、企業・家計の資金調達環境の重石となる

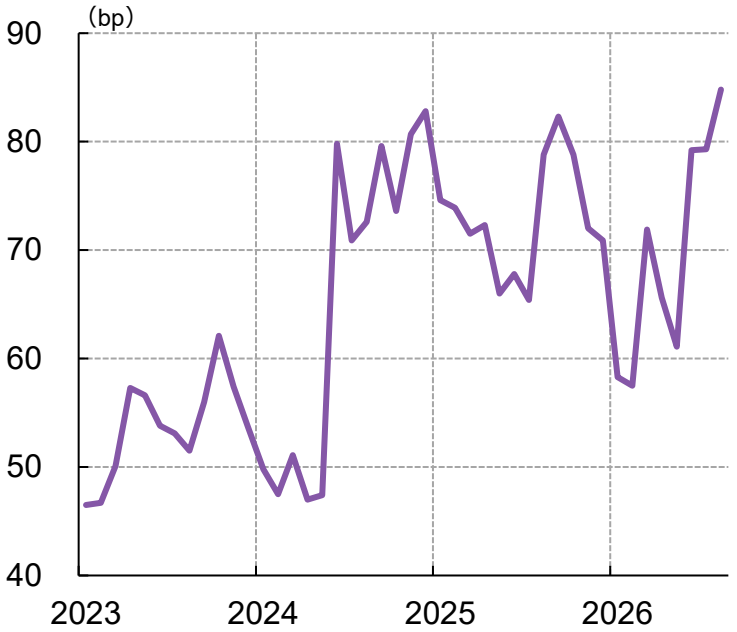
政策金利・長期金利

- 政策金利は2.25%へ低下
- 仏10年債利回りは4%近傍
- 短期と長期の方向が乖離



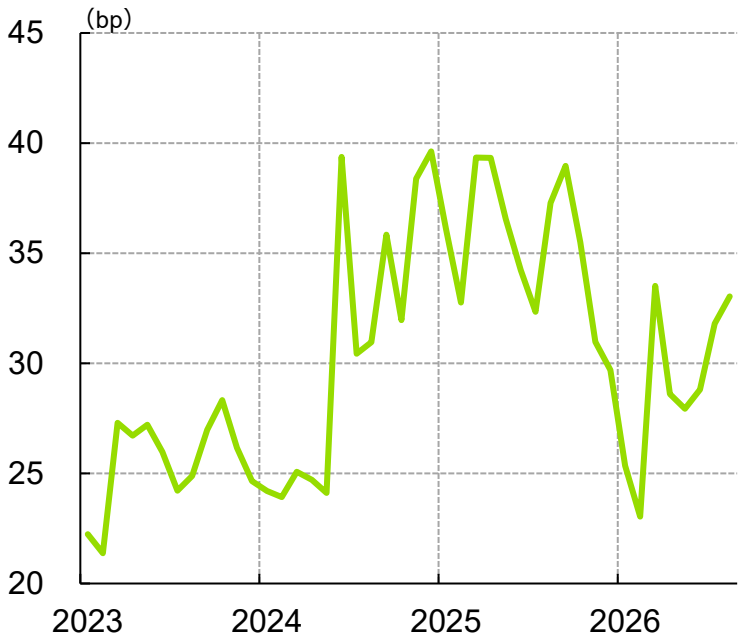
仏独10年国債スプレッド

- 仏独金利差は約85bpへ拡大
- 2026年前半の縮小から反転
- 財政運営への市場の警戒が再び強まる



フランス5年ソブリンCDS

- CDSは30bp台へ再上昇
- 年初の低下後に反発
- 信用リスクへの警戒が再び上向く



（出所：欧州中央銀行、BloombergよりSCGR作成）

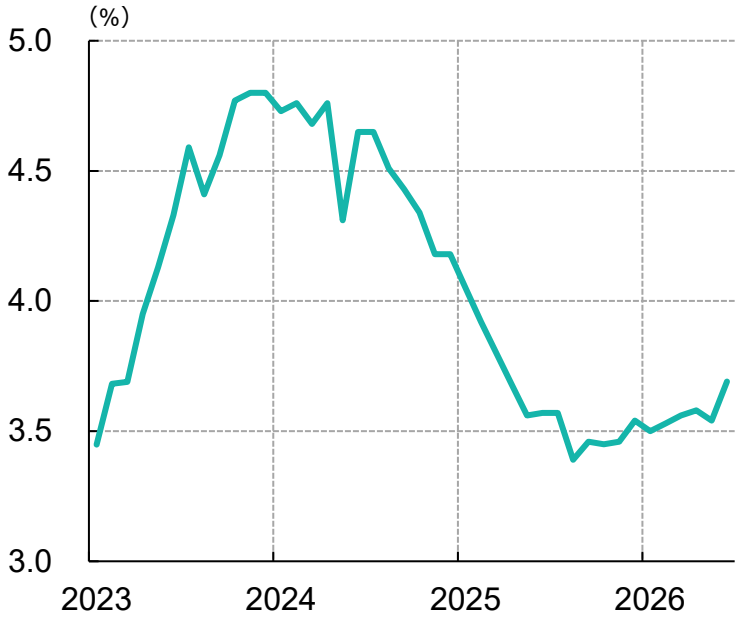
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

金融・信用環境

- 企業向け貸出金利はピーク時から低下したが、足元では下げ止まりの動き
- 企業向け貸出は前年比プラス幅を拡大する一方、住宅向け貸出は横ばい圏
- 金融環境は改善方向も、家計部門への信用波及はなお限定的

企業向け貸出金利

- 貸出金利は低下後、足元で小幅上昇
- ピーク時からは低下も、なお3%台後半
- 資金調達環境の改善は足元で一服

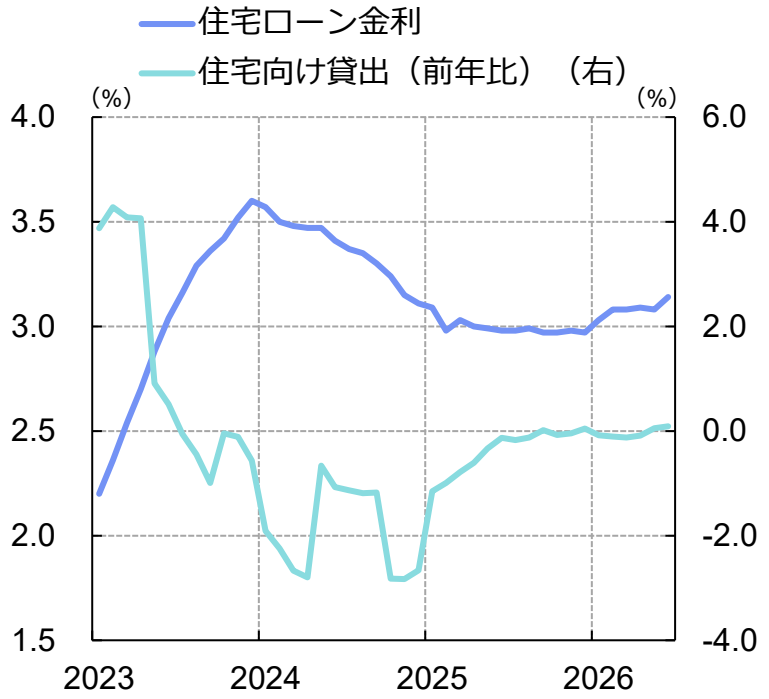


企業向け銀行貸出（前年比）

- 貸出は前年比プラス幅を拡大
- 2024年の前年割れから回復が鮮明
- 信用量の回復が企業活動を下支え

住宅ローン金利・住宅向け貸出

- 住宅ローン金利は3%前後で下げ止まり
- 住宅向け貸出は前年比横ばい圏
- 金融面からの住宅需要押し上げは弱い



（出所：欧州中央銀行、フランス銀行、BloombergよりSCGR作成）

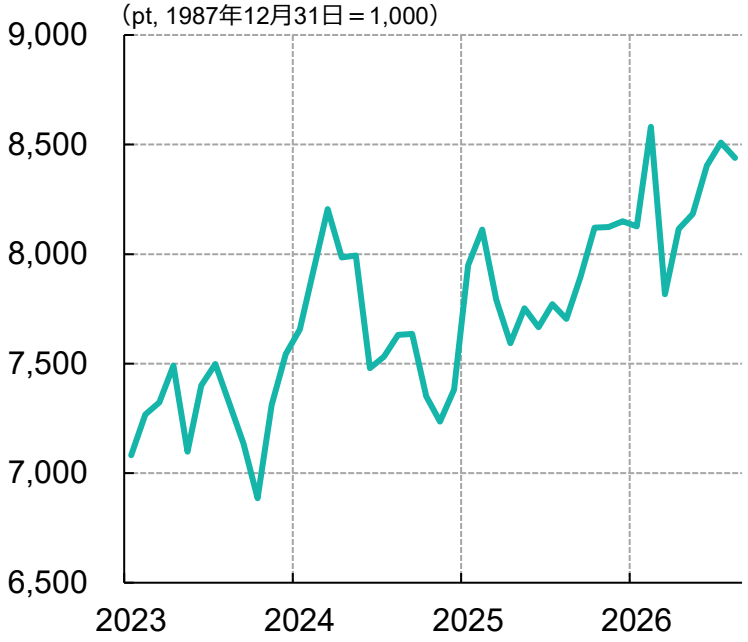
© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.

株式・為替市場

- CAC40は高値圏を維持する一方、2023年以降の上昇率では欧州主要株を下回る
- ユーロは対ドルで2025年初の安値から反発し、足元では1.1ドル台後半で推移
- 株価は高値圏も、欧州株対比の出遅れはフランス資産への慎重な評価を示唆

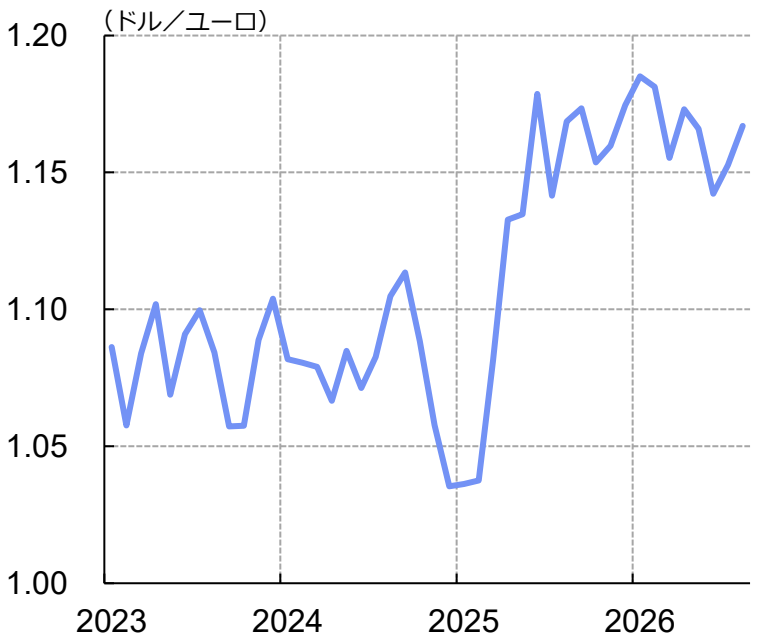
CAC40

- CAC40は8,500近辺の高値圏
- 上昇基調の中でも振れが大きい
- 高値圏も欧州株対比では出遅れ



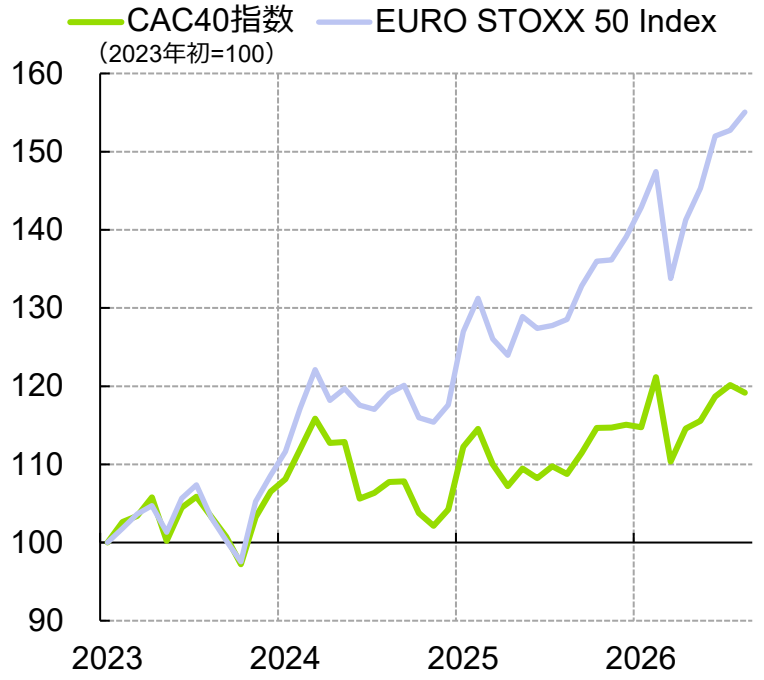
EUR/USD

- ユーロは対ドルで1.1ドル台後半
- 2025年初の安値から水準を回復
- ユーロ高は輸出企業の価格競争力に逆風



CAC40と欧州株の相対パフォーマンス

- CAC40は欧州主要株に対し出遅れ
- 2025年以降に上昇率の差が拡大
- フランス株への相対評価は慎重



(出所：BloombergよりSCGR作成)

© 2026 Sumitomo Corporation Global Research Co. Ltd.